

4 遺物

遺物は包含層と廃棄場（自然の谷（SR103））を中心に出土しました。その量は今年度の調査までで3,500箱（テンバコ換算）を超えており、今後もかなりの増加が見込まれます。ここではその中で特に注目される遺物を紹介します。

大量の土器 包含層と廃棄場よりたくさんの土器が見つかってます。器の種類は深鉢（鍋のようなもの）・浅鉢（皿のようなもの）・注口土器（液体の貯蔵用）などがあります。土器の型式としては縄文時代後期前葉の三十稲場式・南三十稲場式の土器が中心であり、比較的新しい型式の土器も少量ながら見つかっております。

ハート形土偶 北区の包含層よりハート形土偶の顔がみつかりました。これまで、胴体や足などは見つかっていましたが、ハート形をした顔の部分の出土はこの遺跡では初となります。顔の出土地点の近くから接合できる胴体も見つかっており、近辺から他の部分も見つかる可能性があります。

特殊な石棒 柱穴と思われるP5087より出土しました。石棒として使用された後に、砥石として四面が再利用（転用）されたものと考えられます。同じような類例としては県内では津南町の道尻手遺跡出土の石棒があります。

アクセサリ 装飾品としては、赤く彩られた耳飾や垂飾などが見つかってます。特に垂飾は、令和元年度の調査で見つかった環状の垂飾とは異なり、より小型で碗形に近い特徴があります。現在のところ、同じような類例は確認できていません。

石器 石器は石鏃（弓矢の先）・石斧（木を切る道具）・石皿（すり鉢として使用した）・磨石などが見つかっています。その中に長さ7.5cm・幅2cmほどの小形の細長い石器が見つかっていますが、用途は分かっていません。



縄文土器（蓋）



縄文土器（鉢）



ハート形土偶
（長さ11cm）



土偶の胴体（長さ9.5cm）



砥石に転用された石棒（長さ36cm）



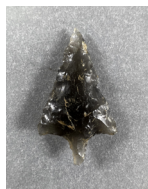
脚付石皿



土製の耳飾



石鏃



土製の垂飾



不明石器（右側長さ7.5cm）

かみの 上野遺跡 現地説明会資料

令和4年9月10日（土）

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

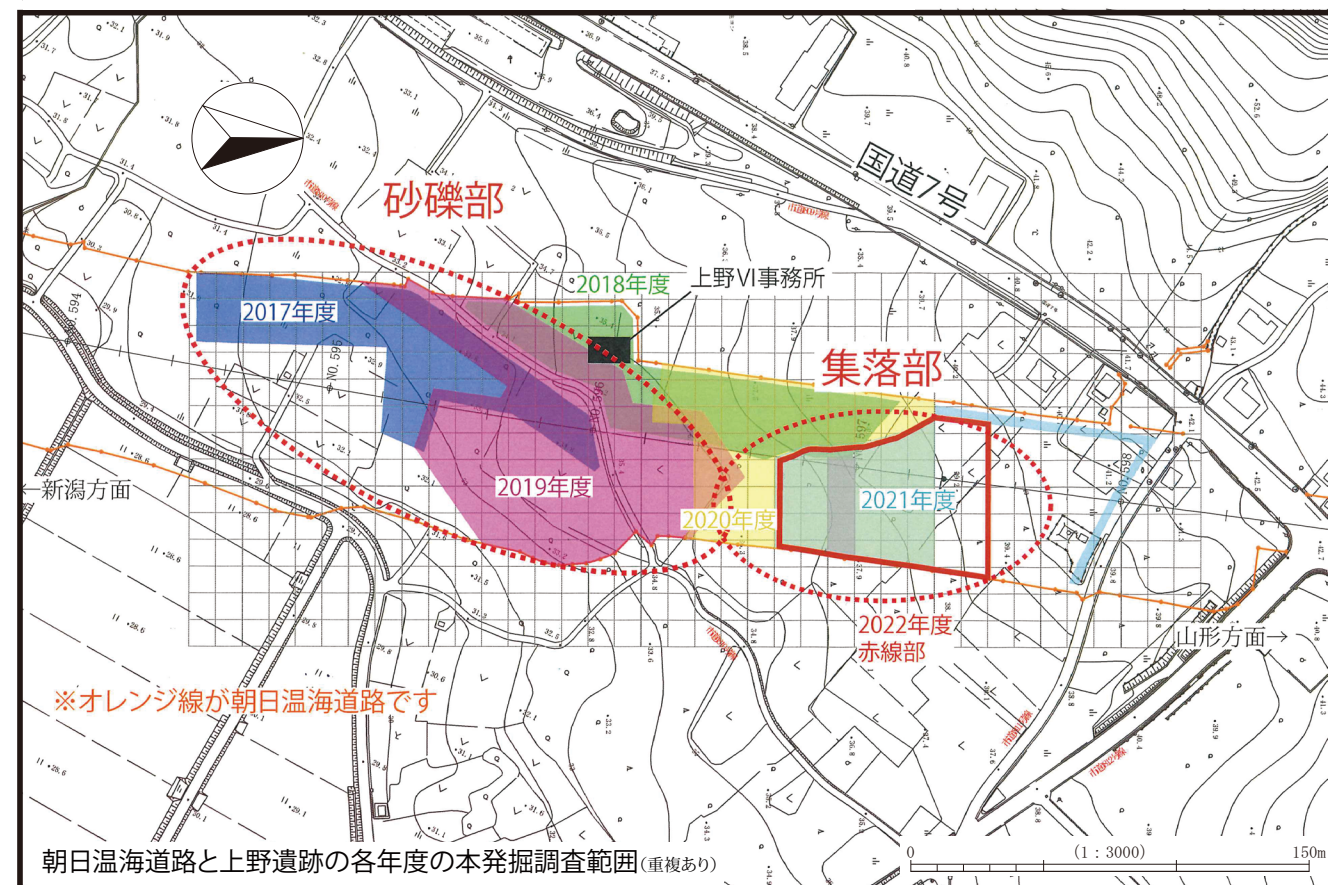
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 遺跡の概要

日本海沿岸東北自動車道の一部となる、国道7号朝日温海道路の建設に伴い、上野遺跡の調査を平成29（2017）年度から引き続き行っております。今年度は6回目の調査として、対象面積約7,582㎡（当初）の調査を実施しています。

遺跡は高根川右岸の西から東へ緩やかに下る標高約37mの扇状地上に立地します。約4,000年前の縄文時代後期前葉の大規模な集落（ムラ）の跡です。年代を推定する土器の型式では三十稲場式新段階から南三十稲場式古段階に渡る比較的短期間の集落と考えられます。遺跡は調査区北側に居住域や廃棄場からなる集落部があり、南側には土砂流に覆われた砂礫部が広がってます。

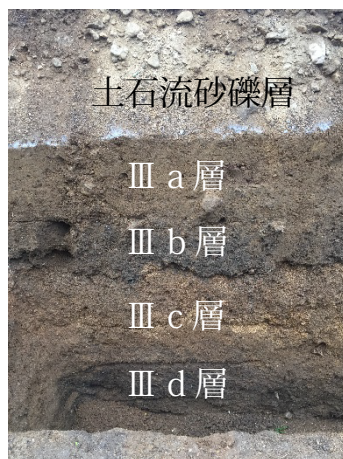
令和2年度から集落部の調査を中心に行い、多くの住居跡と思われる建物遺構が見つかっております。また、焼人骨集積土坑（SK439）を代表に墓と思われる土坑や貯蔵穴もいくつか見つかっており、当時の生活を知るうえで大変貴重な遺跡です。



国土交通省より提供地図を改変

2 基本土層

集落部の縄文時代後期前葉の層は大きく4つに区分することができます。上からⅢa層（黄色土）、Ⅲb層（黒色土）、Ⅲc層（黄色土）、Ⅲd層（黒色土）となり、各層から掘り込まれた遺構があることから、幾度となくこの地を利用していたことが分かります。今年度の調査は昨年からの引き続きでⅢb層を中心に調査しています。



3 遺構

第1次～第6次で平地建物75棟、竪穴建物3棟、敷石建物1棟、ピット（柱穴）4,545基など、また、^ろ炉45基・土坑（貯蔵穴や墓穴）114基・^{まいせつ}埋設土器52基・^{はいせき}配石1基・^{しゅうせき}集石18カ所・溝64条・^{しょうど}焼土（焼けた土の集まり、^{じしゅうろ}地床炉？）123カ所などが見つかってます。その中で注目される遺構について紹介します。

密集する建物 現状の調査成果をもとに、柱穴や炉跡との関係から建物の構造の復元を試みると、かなりの数の建物が建てられていたことがわかりました。建物の種類もその構造から^{たてあな}竪穴建物・^{へいち}平地建物・^{しきいし}敷石建物・^{ほったてばしら}掘立柱建物などがあり、その建物同士が、同位置であまり時間を置くことなく、幾度と建て替えられたことで、密集し重なり合った状態で見つかってます。

大型の柱穴 掘立柱建物の中には特に大型になると考えられるものもみついています。その中でも掘立柱建物のピットであるP4409は長軸約1.3m、深さ約1.2mの規模となります。この柱穴の規模から想定するとかなり大型の建物であったと考えられます。

☆焼人骨集積土坑 上野遺跡で最も注目される遺構が焼人骨集積土坑（SK439）です。複数人分の焼けた人骨が一つの土坑（規模：長軸1.5m短軸1m）から見つかりました。一つの土坑に他所で焼いた人骨を複数体分ランダムに集積する埋葬方法を取るものとしては、いまのところ国内で最古段階のものです。縄文時代の^{そうそう}葬送を考える上で極めて貴重な遺構です。



焼人骨集積土坑 SK439



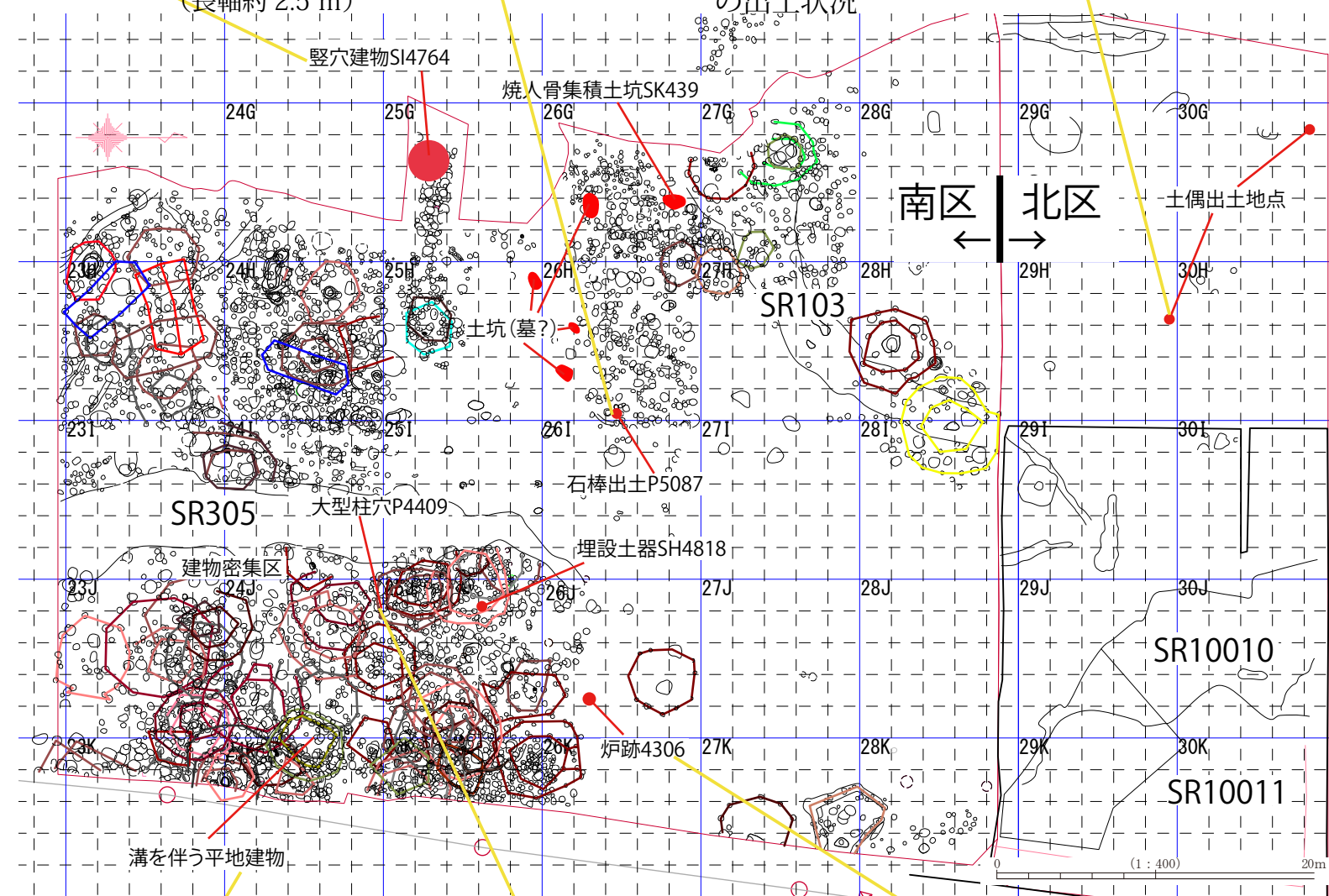
竪穴建物 SI4764
（長軸約 2.5 m）



砥石に転用された石棒
の出土状況



土偶の出土状況



上野遺跡VI調査範囲全体図



溝を伴う平地建物
内側：SI4304（2.8m × 3.5m）・
外側：SI4236（4.5 m × 4.7 m）



大型の柱穴 P4409
（長さ約 1.3 m、深さ約 1.2 m）



土坑 SK4305（左側）・
炉跡 4306（右側）